

## 仰げば尊し・・・和菓子の恩

め たい らくがん きがた てん

# 「お目で鯛!落雁の木型」展

平成26年1月2日~3月30日 柳川市立歴史民俗資料館1F

## 1 和菓子・干菓子とは

城下町柳川には、和菓子が似合いま す。昔からの伝統ある和菓子の店では、 生菓子や落雁を作ってきました。

生菓子とは、水分の多い、主として 餡などを用いた菓子を言います。一方、 水分の少ない乾燥したのものを干菓子 と言います。その中でも落雁は、餅米



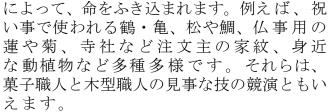
粉を蒸して日干 し細かく挽いて 糖分と水分を加 えて固めたもの です。

和菓子は、慶 事や節句など の通過儀礼(人 生儀礼)でもよ

く使われました。また、落雁は日持ちもよく、茶道でお茶を引き立たせてくれる 干菓子として使われてきました。干菓 子は、季節感あふれ茶席の話題の彩り となりアクセントにもなります。

## 2 落雁の木型とは

和菓子は、四季折々の 風物が彫り込まれた木型



木型を見ていると、浮き彫りではないかと見まごう木型職人の彫り 技術の巧みさも発見できます。

最近では、この木型職人も少なくなり、全国で7、8人とも言われます。

今回の展示「落雁の木型」は、北原 白秋記念館が建設された昭和60年当 時、池上小三郎氏(西蒲池字野田)か ら寄贈を受けた木型に、松石安弘氏(恵 美須町)所蔵の木型を加えています。

近年、落雁の材料に柳川産の大豆を使った

り、木型に柳川の風物を取り上げたりする など、柳川の落雁の世界にも新しい傾向が 見られるようになりました。

年の初めのおめでたい 時に、木型が奏でるシ ンフォニーをお楽しみ ください。



## 3 和菓子に寄せた縁起

和菓子は、四季折々の日本の自然の風景や産物を描きます。1月は、



初夢で、扇形の上に「一富士、 二鷹、三茄子」がならびます。 扇は末広がりで縁起がいいと 言われます。鶴や亀は、長寿 を象徴する吉祥の動物とされ

ます。伊勢海老は、腰が曲がっていること

から年老いた人の喩えで長寿を表します。野菜の木型もたくさんあります。ゴボウ(細く長く 過ぎ(I)



幸せに)、レンコン(見通しがよい)、カブ(頭=かしらになる)、里芋(子宝に恵まれる)などダジャレを込めた験担ぎのお飾りです。

これらは、昔の人々が喜びにつけ、悲しみつけ、永久(とわ)の安寧を願った証拠です。 今のように野菜がいつも手に

入るわけではなく、お供えとして保存がきくモノとして干菓子は好まれました。形や大きさ、それに色を工夫することによって、見た目の美しさや可愛さで一層ひきたつのです。

また、お頭付きの魚はすべて左向 きになるように木型では右向きです。

木型の使用は江戸時代に始まり、 これによって、短時間に同形同質の

干菓子が大量生産できるようになりました。







## 4 和菓子の恩 (1) 五感で楽しむ

和菓子は五感の総合芸術といわれます。



麗容な姿形から美しい情景が浮かぶ「視角」、ほのかにゆかしる味わいる味りに広がる味わいる味りに広がる感触や舌触りにあたる「触覚」です。例えば、雛菓子の特徴は、小さく可愛いことです。始貝を象ったり、水辺の祓いに由来する干菓子も見るのも楽しみの一つです。

このように四季の変化にも対応し、 節句などの年中行事でも使われます。

## (2)耳で楽しむ

もう一つの感覚が耳「聴覚」です。 菓銘(かめい)は、短歌や俳句、花 鳥風月、地域の歴史(故事)や名所な どに由来して名付けられた菓子の名前 です。

茶席での菓子の楽しみ方の一つに「耳で楽しむ」とあるのは、その果銘の由来を聞いて味わい深くお茶をいただくことによります。亭主の趣と心遣いを知ることになるからです。

#### (3) 栄養的には・・・

和菓子は、餅米粉、大豆や小豆、寒 天といった植物や海藻類が原料となっ ているため、食物繊維を多く含み、脂質 も少な目です。砂糖などのカロリーが気に なりますが、動物性素材を多く含む洋菓子 よりは、エネルギーは通常低めです。「和菓 子を味方にダイエット」とする著書も見ら れるほどです。

落雁は、デンプンを糊化( $\alpha$ 化)させた 穀粉が素材で、この性質が落雁の固さ、風 味、消化性に影響を与えます。

### 5 木型の楽しみ方

(1) 二枚や三枚合わせ 木型の材質は、樫、椿、桜、栗材などですが、落雁の厚さに合わせて2枚合わせや3枚合わせもあります。重ね合わてもずれないように突

起と穴がついていた り、組み合わが分か りやすいようにV字の 刻み印がついていた りするものもありま



す。立体的な4枚合わせもあります。

### (2)行事の木型

子どもの頃、卒業式などの行事の際に右の



ような落雁のお土産(引出物)を貰った経験のある方も多いことでしょう。こ



こに展示している木型には、「御大典」「落成式」などと行事名の刻まれたものがあり、「奉

祝」と書いて国旗を象った記念品もあります。いずれも右から読むようになっており、戦前のものと思われます。

## (3) 墨書から見えてくること

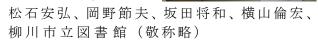
展示している池上氏寄贈の木型の中には、「三潴郡川口村下新田五反田龍政太郎」と墨書のあるモノが多数有ります。「大正五年拾壱月吉日」や「高嶋屋龍商店」の記述もあります。現地でその人物を探してみると、池上氏の師匠筋のそのまた師匠にあたる菓子職人がいたらしいことが分かりまた。この木型が菓子職人の師匠からまた。この木型が菓子職人の師匠からまた。

\_\_ した。この木型が菓子職人の師匠から弟子 へ、またその弟子への伝世品であった 可能

性が見えてきまし た。



池上小三郎、



#### 【主な参考文献】

徳力彦之助『落雁』三彩社 青木直己『図説和菓子の今昔』淡光社 NHK『美の壺』和菓子

溝口政子他『福を招くお守り菓子』講談社 小西千鶴『和菓子のはなし』旭屋出版 高橋節子『和菓子の魅力』建帛社

# 北原白秋生家 · 記念館

問い合わせ/電話(0944)73-8940 FAX(0944)74-3810

## 柳川市沖端町55-1

入館料大人400円、学生350円 小中学生150円